

源三の口寄し

源三は身長一丈八寸三セニ寸、そのはほと

よく肉がつかき男衆だ

今日のは十月二十八日、まぢつ三月九日だ

刀の端の端、出まていろか

大丈夫ひす、五ヶ所辨辨おまてりすや

うすもおちとなく、エロむし

うすか出され並べられ

小作人か出し、五ヶ所をうすに、すまな

だ、ついで、持ちかえ、二ヶ所か出まて

あ、ちでも、こつちでも、あしよし、あしよし

のかけ声に、だんだんおぼりの取も、おぼり

出まて、それと、おぼり、おぼり、おぼり

す、おぼり、おぼり、おぼり、おぼり

源三は、その姿を、おぼり、おぼり

今年も、いい年だ、おぼり、おぼり、瑞穂す

おぼり、おぼり、おぼり、おぼり、おぼり

源三は、おぼり、おぼり、おぼり、おぼり

おぼり、おぼり、おぼり、おぼり、おぼり

おぼり、おぼり、おぼり、おぼり、おぼり

城主成源代かう婿のこし入れうほが未だ

味異ととろろニと存りかろろ海備だ

殿さすの所へ行くと考ると至理便うまの

率律をしなれば有りふり

公式の味あせら一式紀糖道具布巾

火煉あまかやの葛籠と膨大傘まのび

活三付津浦の友女最善まつくしに田畑をう

り精いつはいのことました

さ子これとよとと思つた時頭をかろりたの

はふ後やこした

見毒をへらすのけ子待に申しりやろし

元にもとろろ

それにはどうする物細りニとを存する

写時併合したかとの国は内地のうさ

そこへ行こう内地の三信の土地不得るね

羽黒村かうかとの国の光州へ引こした

行つた先は羽黒村よりあくとりいふ田畑を

ととろろ羽黒村と同一ようになら<sup>上げ</sup>年月がわ

ろと源三はむたすう印いたそいて

オールのの趣味にやがてあ午た

頃、この御殿といわれ、左の扉をたて、羽黒打の

時と同じよう、に、下二月二十三日、目もちつと、し

た、<sup>やがて</sup>八下三日、<sup>て</sup>生誕をおえた

おくる、の、二人、下五年、その後、源三の孫、有人

伊予、うり、れ、こ、い、等、い

から、う、じ、<sup>て</sup>博、古、書、を、も、つ、人、因、死、た、り、た、一、人、た、

源三、<sup>が</sup>信、安、意、を、<sup>り</sup>こ、さ、<sup>り</sup>か、<sup>り</sup>た、せ、り、か